

地震による住家・非住家の被害調査(全壊・大規模半壊・半壊・一部損壊の判定)について

市では、東日本大震災による住家・非住家の被害をとりまとめています。住家・非住家が被害を受けている場合は最寄りの窓口に届け出てください(すでに災証明発行のため被害認定調査を行ったものおよび応急危険度判定を行ったものを除く)。

◇届け出内容…▷所在地▷所有者名(法人を含む)▷種類(例:住宅、車庫、土蔵など)▷被害の状況(例:瓦の落下、壁が剥がれた、基礎のひび割れなど)▷届出人の住所・氏名・連絡先

※届出用紙は本庁税務課または各支所市民課窓口に準備しています。

◇被害認定調査…所有者などの申し出により調査を行います。被害が広範囲に及んでいるため、調査には時間がかかる見込みです。被害調査前に修繕などを行う場合は、被害内容を確認できるよう、被害状況を撮影した写真と工事の見積書や明細書などを保管しておいてください。

◎届け出・問い合わせ先…本庁税務課☎8257または各支所市民課税務係

被災者生活再建支援金制度

◇対象となる世帯…①住宅全壊(※1)した世帯②住宅が大規模半壊(※2)した世帯③住宅半壊(※3)し、住宅をやむを得ず解体した世帯④敷地に被害が生じ、その住宅をやむを得ず解体した世帯

※1 住宅全壊…住家がその居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち住家全部が倒壊、流失、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもの。具体的には、住家の損壊、焼失もしくは流失した部分の床面積がその住家の延べ床面積の70%以上に達した程度のも、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表わし、その住家の損害割合が50%以上に達した程度のも。

※2 大規模半壊…住家が半壊し、構造耐力上主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難なもの。具体的には、損壊部分がその住家の延べ床面積の50%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表わし、その住家の損害割合が40%以上50%未満のもの。

※3 住宅半壊…住家がその居住のための基本的機能の一部を喪失したもの、すなわち住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもの。具体的には、損壊部分がその住家の延べ床面積の20%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表わし、その住家の損害割合が20%以上50%未満のもの。

◇支援金の支給額…住宅の被害程度に応じて支給する支援金(A基礎支援金)と住宅の再建方法に応じて支給する支援金(B加算支援金)があります。

(単位:万円)

区分		A 基礎支援金 (住宅の被害程度)	B 加算支援金 (住宅の再建方法)	計 (A+B)
複数世帯 (世帯の構成員が複数)	全壊世帯	100	建設・購入200	300
			補修100	200
	大規模半壊世帯	50	賃借50	150
			建設・購入200	250
単身世帯 (世帯の構成員が単数)	全壊世帯	75	補修100	150
			賃借50	100
			建設・購入150	225
	大規模半壊世帯	37.5	補修75	150
			賃借37.5	112.5
			建設・購入150	187.5
			補修75	112.5
			賃借37.5	75

◇申請期限…【A基礎支援金】24年4月10日【B加算支援金】26年4月10日

◇提出書類…【A基礎支援金】①被災者生活再建支援金支給申請書②被害程度のわかるり災証明書(本庁税務課または各支所市民課で発行)③住民票の写しまたは外国人登録原票記載事項証明書(世帯員全員のもの)④振込口座の通帳の写し(金融機関名、口座番号、世帯主名義「振り仮名」が印字された部分)※(住宅が半壊し、やむを得ず解体した場合は①～④に加えて⑤滅失登記簿謄本。敷地に被害が生じ、その住宅をやむを得ず解体した場合は①～⑤に加えて⑥敷地被害を証明する書類【B加算支援金】⑦住宅の建設・購入・補修または賃借が確認できる契約書などの写し

◎申請先・問い合わせ先…本庁児童福祉課総務係または各支所保健福祉課



6



7

- 5 余震により外壁が大きく崩落した中里公民館
- 6 巨大な落石が道路の半分をふさいだ県道薄衣舞川線
- 7 多数の住宅被害が報告されました
- 8 住宅被害が多数報告された赤荻地区を達増知事も視察。市では、復旧・復興のため県の支援を要請しました



8



5

被害額約77億円
4月12日現在の当市の被害額は、約77億円となり、3月29日現在の被害額約53億円から24億円の増加となりました(下表のとおり)。
住家などの被害は、この時点で全壊9棟、半壊6棟ですが、調査件数は7日の余震以降激増しており、被害棟数と被害額はさらに増加する見込みです。

県知事へ要望も
余震に伴う住家の甚大な被害に関して4月15日、達増知事が赤荻地区を視察した際、勝部市長は「予想以上の被害。被災された人たちの支援をお願いしたい」として住宅に被害を受けた世帯に支給される「被災者生活再建支援金」について▼家屋を解体する費用のかさ上げ、支援範囲を半壊にも拡大すること▼支援金の対象を私道の亀裂や崩壊、宅地敷地の亀裂や陥没、塀の倒壊や損傷、法面の崩壊などにまで拡大すること▼応急仮設住宅として民間賃貸住宅を対象とすることなどを要望。達増知事は、「一関市と協力してしっかりと対応していきたい」と述べました。

■主な被害内訳 (4月12日現在)

分野	調査率	被害額	主な内容
住家など	13.7%	—	住家全壊9棟、半壊6棟など
農地・農業用施設・林業	63.2%	12億2574万円	農地448カ所、ため池・水路など317カ所、農業施設86カ所
農作物・畜産関係	85%	8855万円	豚300頭、鶏約57万羽、生乳631トン
土木施設	80%	14億1496万円	河川28カ所、道路1040カ所、橋梁1カ所
学校・社会教育	80%	9億3143万円	学校教育施設67カ所、社会教育施設36カ所、体育施設38カ所
社会福祉	67.5%	8563万円	老人福祉施設など16カ所、保育園など17カ所
都市施設	93.6%	8億6963万円	上水道141カ所、簡易水道46カ所、下水道254カ所
商工・観光関係	67.6%	28億996万円	商業203事業所、工業186事業所
その他	84.9%	3億4763万円	公営住宅、消防施設ほか

雇用対策

事業名	予算額(万円)	内容
1. 緊急雇用事業	7300	市道環境整備など7事業
2. 重点分野雇用創出事業	1億 167	地域資源販路開拓など24事業
3. 地域人材育成事業	1億3033	林業者育成など8事業
4. ふるさと雇用再生特別基金事業	1億3710	介護保険事業所人材確保支援など20事業
5. 新規高卒者ふるさと就職支援事業補助金	1600	新規高卒者の地元就職と定着を図るため、新規高卒者を採用した雇用主に研修の実施など人材育成費用として20万円を助成
6. 地域企業パワーアップ支援事業(※)	212	企業経営者などを対象に、若い人材などの定着を図るセミナーを開催
7. キャリア教育支援	547	キャリア支援員・キャリアサポーターによる小・中・高生を対象とした職場体験事業など
8. 各種就業支援	999	若年者就業支援相談、地域職業相談室、雇用相談員配置など

企業育成

1. 地域企業の人材育成・経営強化・連携促進に対する支援	3483	企業の魅力発信力向上事業(※)、人材育成事業費補助金、次世代ものづくり人材育成事業、地域企業情報ガイダンス開催事業など
2. 企業立地の促進	1億8395	企業立地促進奨励事業費補助金、企業設備投資奨励補助金など
3. 立地企業操業支援事業費補助金(※)	200	新規立地企業の操業にあたり、新規採用者に係る人材育成経費や社員研修費などを助成
4. 一関東第2工業団地立地促進事業	8億6929	企業立地促進奨励事業費補助金、情報発信など

産業振興

1. 「地産外商」の推進	6769	一関市の全国に誇れる農産物や特産品の販路拡大に関する12事業、情報発信に関する9事業
2. 農業経営体の育成・強化	7114	いわて未来農業確立総合支援事業費補助金、担い手育成対策事業など
3. 農業基盤整備の促進	1億2781	県営基盤整備事業負担金、県営ため池等整備事業負担金など
4. 農産物の産地づくり	4814	野菜花き生産振興事業補助金、一関のめぐみブランド化推進事業など
5. 資金融資枠の確保と利子・保証料補給	6億2349	低利な中小企業振興資金貸付金の原資預託、同資金と岩手県小規模小口資金に係る一定の利子補給と保証料の助成
6. 年末年始連合大売り出し事業補助金	524	年末年始の商店会などの連合大売り出しでの共通商品券事業に対する助成
7. 商店街活性化事業補助金	500	一定の要件を満たす空き店舗への入居者に対し、開店に要する店舗内外装費用の一部を助成
8. 大型観光キャンペーンの推進	241	平成24年4月から6月に開催される「いわてデスティネーションキャンペーン」のPRなど

教育・人材育成

1. 大東小学校整備事業	4億5920	摺沢小、渋民小、首慶小の3校の統合による小学校の建設
2. (仮称)千厩学校給食センター整備事業	6億4560	千厩地域、室根地域、藤沢町の12小中学校を対象とした学校給食センターの建設
3. 図書館の建設	1億1160	一関図書館と花泉図書館建設の実施設計
4. 体育施設の移転整備	10億4090	一関水泳プール、青葉テニスコートの移転整備
5. 特別支援教育の推進	4338	特別支援コーディネーター、学校サポーター(小中学校)などの配置
6. 全国高等学校総合体育大会開催事業	2415	8月に当市を会場として行われるインターハイ(体操競技)の開催PR事業など
7. 生涯スポーツの推進	357	平成28年度の岩手国体開催を見据えた選手強化・指導者育成事業など
8. 旧東北砕石工場改修事業(※)	498	国登録有形文化財となっている旧東北砕石工場の大規模改修に向けた実施設計
9. 中学生最先端科学体験研修事業	168	中学生(60人)を対象に、筑波研究学園都市で宿泊体験研修を実施

保健・福祉・医療の連携強化

1. 小学生医療費の無料化(※)	1億6215	これまで乳幼児を対象としてきた医療費の無料化を新たに小学生まで拡大
2. 乳幼児医療費の無料化	1億4323	出生時から就学前の児童までを対象に、医療費を無料化
3. 個別予防接種の無料化	2億8536	子宮頸がん予防ワクチンなどについて基準接種対象者の予防接種費用を無料化
4. 第3子以降保育料の無料化	1億1627	第3子以降の保育園、幼稚園などの保育料を無料化
5. (仮称)保健福祉センター整備事業	3360	一関保健センターに保健・福祉の複合的センター機能を備えた新たな施設整備の基本設計
6. 介護サービス施設の整備促進	10億1164	第5期介護保険事業計画の前倒しによる小規模特別養護老人ホームなどの整備と施設開設準備に係る経費に対する助成
7. 医師修学資金貸付事業	1120	将来医師として市内の指定医療機関に勤務しようとする人を対象に修学資金の貸し付けを行う
8. 地域医療・介護連携推進事業	500	医療と介護の連携体制づくり、医療・介護従事者の資質の向上などを図る事業
9. 高齢者福祉乗車券事業	6094	70歳以上の高齢者世帯などを対象とした高齢者福祉乗車券(タクシーやバス料金の一部助成)事業

23年度予算

中東北拠点都市形成特別推進事業として9つの事業

合併後初の600億円台

23年度予算は、「中東北拠点都市への基礎づくり予算」として編成。予算規模は、一般会計で約604億円。合併後初めて600億円台の予算となりました。

次代を担う子供たちの健康を守り、子育て支援、市独自の雇用対策などにより「子育てしやすい」、「暮らしやすい」環境づくりを進めることにより定住促進にもつなげていく予算としました。

また磐井川堤防改修を契機としての公共施設の再配置とこれに関連するまちづくりや市有財産の長寿命化などを行っていきます。

中東北の拠点都市を目指して

岩手県南から宮城県北までの「中東北」の拠点都市を形成していくために「中東北拠点都市形成特別推進事業」を行っていきます。これは中東北の拠点としての基礎を築くた

めに特別に事業予算を確保して行う事業で次の9つを設定。これら特別事業の予算額は、約6億3000万円となります。

- 小学生医療費の無料化
- 「真ん中」の雇用対策
- 市有財産活用推進事業
- 世界遺産登録に向けた支援と受け皿づくり
- コミュニティFM局の開設準備
- JR駅前のトイレ整備
- 「地域の宝」を守る取り組み
- 学術研究都市構想の推進
- 県際の地域連携

重点事業10項目も

このほか昨年度に引き続き雇用対策、産業振興など10項目の重点事業も実施していきます。さらに経済対策事業として道路の維持補修や生活道路などの改良、簡易水道の整備など来年度以降に行う事業を前倒しして行います。各事業の内容は、表のとおりです。

中東北拠点都市形成特別推進事業

中東北の拠点都市としての基礎を築くために、早急に取り組む必要があることから特別に事業予算を確保して行う事業

事業の項目	予算額(万円)	内容
▶小学生医療費の無料化	1億6215	これまで、乳幼児を対象にしてきた医療費の無料化を新たに小学生まで拡大
▶「真ん中」の雇用対策	617	社員が定着するための「真ん中」の雇用対策として地域企業パワーアップ支援などを実施
▶市有財産活用推進事業	2億5627	既存の市有財産の長寿命化、有効活用などの整備を計画的に進める
▶世界遺産登録に向けた支援と受け皿づくり	9034	県や平泉町などと連携した世界遺産登録記念事業、一ノ関駅西口北駐車場の拡張など
▶コミュニティFM局の開設準備	1760	地域情報と防災情報を配信するコミュニティFM局の開局に向けた準備
▶JR駅前へのトイレ整備	8719	8カ所のJR駅に公衆トイレを整備(うち1カ所は建て替え)
▶「地域の宝」を守る取り組み	708	国登録有形文化財「旧東北砕石工場」の改修実施設計など
▶学術研究都市構想の推進	400	学術研究都市としての将来的なまちづくりを展望するための土地利用などの基礎調査
▶県際の地域連携	79	宮城県栗原市、秋田県湯沢市、東成瀬村との観光振興事業を実施

10の重点施策ごとの主な事業の紹介 (※は中東北拠点都市形成特別推進事業)

「中東北」の拠点都市一関の形成

事業名	予算額(万円)	内容
1. 広域的な幹線道路網の整備	12億 842	矢ノ目沢金沢線・清水原一関線、真滝中央線、松川駅館下線など
2. 藤沢町との合併の推進	1億4782	合併準備経費、合併準備会負担金
3. 市有財産活用推進事業(※)	2億5627	既存施設の維持補修事業など
4. 地域連携事業	249	ゆっくりひとめぐり栗駒山麓観光振興事業(※)など
5. 学術研究都市構想策定事業(※)	400	学術研究都市としての将来のまちづくりを展望するための土地利用などの基礎調査



不動尊算額。県の指定文化財

算額は、自分で作った数学の問題を絵馬に仕立てて神社仏閣に奉納したものです。難しい問題を作れるようになったことへの感謝の気持ちとさらなる学力向上を祈願して奉納したものと考えられます。市内には58面の算額が残っていますが、これは市町村単位では全国一の数を誇ります。

この算額は、金ヶ崎町の不動尊に元文6(1741)年に奉納された岩手県最古のもので、県の指定文化財となっています。全国でも7番目に古い算額です。

同町には、仙台藩の要害が置かれ、寛永21(1644)年から伊達氏の一族である大町氏が治め、周辺は城下町として整備されました。要害と武家屋敷一帯は、国の重要伝統的建造物群保存地区とされ、現

在も江戸時代のたたずまいを残しています。算額が保管されていた鈴森家も、この地区にあります。鈴森家は大町氏の家臣で、浄信院という修験(山伏)の家でもありました。算額を奉納した岩崎秋房も大町氏の家臣です。

算額は、縦68センチメートル、横220センチメートルと大型で、図形に関する問題3題と、算木という道具を用いた天元術による計算方法の説明があります。また、岩崎秋房が、和算の免許状を受けた記念に算額を奉納したと書いています。

一関地方で和算が盛んになる以前の算額です。古いために劣化が進み、保存上展示する機会が少ない資料ですので、この機会にぜひご覧ください。

博物館

Ichinoseki City Museum

だより

岩手県最古の算額 不動尊算額(金ヶ崎町)

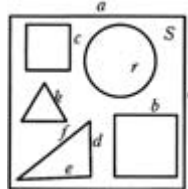
37

1問目の現代的な解法

(「庶民の算額展」図録2005年より)

問題

いま大きな正方形に5個の図形(円、中正方形、小正方形、正三角形、直角三角形)が切り抜かれている。残った面積Sとa'の和は



$S+a'=65580.185$ であり、
 $a+b+c+2r+d+k=51$ であり、
さらに $2r-b=1$, $b-c=1$, $c-d=1$, $d-k=1$, $e-d=2$ なる条件のとき、 c を求めよ。

答え

$c=7$
ただし $\pi=3.16$, $\frac{\sqrt{3}}{4}=0.433$ とする。

解説

条件から $b=c+1$, $d=c-1$, $k=c-2$, $e=c+1$ として、
 $S=a^2-b^2-c^2-\pi r^2-\frac{\sqrt{3}}{4}k^2-\frac{1}{2}ed$ と
 $a=50-4c$ を
 $S+a'=65580.185$ に代入する。
 c に関する4次方程式(三乗方)を解けばよいとしている。
 $a=16$, $b=8$, $c=7$, $d=6$, $k=5$, $2r=9$, $e=8$,
 $S=44.185$ となる。

一関市博物館案内

☎29-3180 ホームページ <http://www.museum.city.ichinoseki.iwate.jp>

GWゴールデンウィークの展覧
岩手県最古の算額

【開催日時】4月29日(金)～5月15日(日)

【関連行事】展示解説会

【開催日時】5月1日(日)10時～10時30分、13時30分～14時の2回

【テーマ】**中世荘園からの招待状・図解骨寺村**

【会期】5月28日(土)～7月10日(日)

【関連行事】骨寺村荘園遺跡ツアー

【開催日時】6月5日(日)13時～16時

※参加無料

体験・刀の見方入門編

【開催日時】5月5日(日)午前の部 10時30分～11時30分(午後の部) 13時30分～14時30分 ※参加無料

古文書講座

【御郡方御用留】を読む(全7回)

【初回】5月15日(日)13時～15時

参加料：300円

美術についてのおしゃべりの会

【開催日時】5月21日(日)13時30分～15時30分 ※参加無料

和算講座(初心者コース)

楽しむ和算(全7回)

【初回】6月11日(土)13時30分～15時

参加料：300円

吾妻鏡から平泉を読み解く

(全7回)

【初回】5月22日(日)13時30分～15時30分

参加料：300円

※詳しくは、広報4月15日号折り込みの博物館年間行事案内をご覧ください。

平成23年度予算

地域コミュニティの自立支援

事業名	予算額(万円)	内容
1. いちのせき元気な地域づくり事業	6150	地域住民と行政との創意工夫により、各地域で特色のある地域づくりのための事業を実施
2. 地域おこし事業など地域づくり活動に対する支援	1億 928	地域おこし事業費補助金、自治会等活動費補助金、一関グリーン・ツーリズム推進事業、地域間交流事業など
3. 協働によるまちづくりの推進	2997	市民活動推進事業、市民協働支援事業、ふれあいの道づくり推進事業など
4. 小森塾復元整備事業補助金(※)	210	高野長英の希少な遺構とされ重要な建物である「小森塾」の復元修理に対する助成
5. 地域に根差した文化財や伝統文化の保存・継承	500	指定文化財保護事業補助金、郷土芸能活動費補助金
6. まつりや地域イベントなどに対する支援	2918	各地域の夏まつり開催事業負担金、水かけ祭り保存会事業費補助金、唐梅館絵巻実行委員会補助金、一関春まつり開催事業補助金など

環境対策

1. J R 駅前トイレ整備事業(※)	8719	J R 大船渡線、東北本線の駅前8カ所に公衆トイレを整備
2. 新エネルギー等導入事業費補助金	350	住宅用太陽光発電システムの設置経費に対し1キロワットあたり1万円を助成
3. 資源リサイクル事業	1107	自治会やPTAなどによる集団回収により、地域ぐるみの資源リサイクル活動を促進
4. 地球温暖化対策など環境に関する意識の醸成	218	地球温暖化に関する啓発事業、エコ友チャレンジ事業など
5. 下水道・浄化槽の整備	15億1333	公共下水道整備事業、浄化槽整備事業、浄化槽の設置に対する助成
6. 公用車へのハイブリッド車導入	735	公用車の更新にあたり、更新車両のうち3台をハイブリッド化
7. 市役所の環境マネジメントシステム導入	48	エネルギー使用量の適正管理などを行うためのシステムを導入

内陸地震からの復興と教訓を生かしたまちづくり

1. コミュニティFM局の開局準備(※)	1760	地域情報と防災情報を配信するコミュニティFM局の開局に向けた開局準備事業
2. 南消防署建設事業	2億4386	南消防署(花泉町地内)の老朽化に伴う建て替え
3. 防災行政情報システム整備事業	3860	市内全域に防災行政情報を一斉伝達できる防災行政無線と消防救急無線の一体的整備に向けた実施設計など
4. 学校施設耐震化	11億8418	川崎中学校校舎・屋体の建て替え、山目小学校など2校の耐震改修、千厩小学校校舎など6校の耐震補強、磐清水小学校校舎の耐震改修実施設計
5. 木造住宅の耐震診断、耐震改修工事助成	3203	昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震診断を実施し、危険な住宅に対して改修費を助成
6. 防災マップ・土砂災害ハザードマップの作成	840	危険箇所や避難場所、防災に関する知識などをまとめたマップなどを作成

平泉文化遺産の世界遺産登録に向けた支援

1. 「平泉の玄関口」としての受け皿づくり	9007	平泉世界遺産登録記念看板設置事業(※)、一ノ関駅西口北駐車場拡張整備事業(※)など
2. 「平泉の文化遺産」の世界遺産登録記念・記念事業など	448	登録祈願ウォーキング(※)、平泉世界遺産登録記念事業負担金(※)、平泉ナンバーを実現させる会負担金(※)など
3. 骨寺村荘園遺跡の追加登録に向けた取り組み	2億8522	骨寺村荘園地区整備事業(交流館展示棟建築、駐車場整備など)、世界遺産登録推進事業(講演会開催、推薦書の作成など)など

経済対策事業 後年度事業の前倒しなど25億5937万円

事業の項目	予算額(万円)	事業の項目	予算額(万円)
保育園などの備品更新	720	河川や水路の改修	3030
農業用水路など農業施設の改修など	1675	公園施設の整備	3760
林道の改良、舗装など	2250	市営住宅の修繕など	2500
年末年始連合大売出し事業補助金	524	住宅リフォーム助成事業	1608
工業団地送水施設の改修など	3960	救急資機材や消防車両などの更新	3730
観光散策路の整備	800	幼稚園や小中学校の修繕など	3800
歩道の整備	1500	スクールバスの更新	4200
道路の維持補修	5億4200	社会教育施設の備品更新	2100
橋りょうの修繕	1億 440	簡易水道の整備促進	7億7000
生活道路などの改良、舗装	4億8420	マイクロバスや道路維持車両などの更新	5190
地域間を結ぶ道路などの改良	2億2800	その他公共施設の修繕・改修・環境整備など	1730

ふれ-ふれ-クラブ



桜町中学校吹奏楽部

今年度、新入部員を19人迎え、部活動をスタートさせました。みんなで力を合わせ、美しいハーモニーを奏でたいと思います。

わたしたちはこれまで、全体だけでなく、楽器のパートごとにも基礎練習を重ね、それぞれに足りないものを補うよう練習してきました。このような練習の結果、アンサンブルコンテストでは2グループが県大会に出場しました。また、高校生の先輩方と練習する機会も何度かあり、楽器の奏法や曲想づくり、練習のしかたなどを学ぶことができました。

これまで身につけてきたことを今後の活動に積極的に取り入れ、夏のコンクールで少しでもいい結果を残せるよう頑張っていきたいと思います。

文・部長の菅原ももこさん(3年)



佐藤支所長へ千羽鶴と手紙を託す田河津小の児童

復興の願い届けたい

千羽鶴と手紙でエール

東日本大震災で被災した陸前高田市を励まそうと、田河津小学校の新6年生11人は、3月31日、東山支所を訪れ、復興の願いを込めた千羽鶴と児童らが書いた手紙を佐藤支所長へ託しました。

昨年6月に野外活動で訪れた陸前高田市が被災されたことに心を痛め、千羽鶴で励まそうと父母らとともに約1週間で作成しました。児童を代表して千葉夏希さんが「少しでも元気になってもらえるように心を込めて折りました。私たちの思いが伝わってほしい」と語りました。

千羽鶴と手紙は4月1日に職員を通じて陸前高田市の長部小学校へ届けられました。



1日でも早い復興を願って

まごころ届ける

炊き出しボランティア活動

3月11日に発生した東日本大震災。沿岸部の広い範囲で甚大な被害を与え、隣接する気仙沼市ではライフラインが寸断され多くの市民が避難所生活を送っています。被災地を支える室根町各自治会のおにぎり作りボランティアの皆さん。気仙沼市の避難所への支援の一環として、3月16日から毎日、室根保健センターに集合し750個~1000個のおにぎりを作り、気仙沼市の避難所へ提供しています。

このほか、同町交流促進センターでは、気仙沼市(小泉地区)から避難している人に入浴サービスの提供を行っており、避難所生活で疲れた体を癒やしています。



みんなと協力し地域の復興願う

佐藤裕一さん(花泉)

上油田第二工業団地への誘致企業で今年1月から稼働しているタケヒロカイハツ(株)で、車の内装部品であるデッキボード製造作業を行っている裕一さん。安全第一、品質第一を心掛けて仕事をしています。将来は、「仕事をきちんとこなし、後輩からも慕われる存在に」と仕事への意気込みが

感じられます。休日は、家で過ごしたり人と遊ぶことが多いですが、家の農作業を手伝うこともありますが話す裕一さん。「震災で大きな被害があったが、少しずつ活気づいていってほしい。自分もみんなと協力し合い、地域が再生できるように頑張りたい」と地域復興への思いを頼もしく語ってくれました。



雇用促進住宅に入居する被害を受けた120世帯にも配付を予定

まちのトピックス

地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

in Ichimoseki

マップで支援、地域医療

自治会協議会が作成配布

千厩町自治会協議会(永澤由利会長)が3月、千厩地域の病院や医院、歯科、処方せん受付保険薬局や薬店を地図上に表した「せんまや地域医療福祉MAP」を作成。千厩地域の全世帯に配付しました。

マップは、千厩町まちづくり団体連合会の協賛と医師会などの協力を得て作成。近隣の公立医療機関も加え、それぞれの診療科目や診療日が分かる一覧のほか、上手な医療機関のかかり方や休日当番医の確認方法なども掲載しています。

永澤会長は「かかりつけ医を持ち、診療時間内の受診を心掛けて欲しい。電話機のそばなど、見やすい場所に張って活用してもらいたい」と話していました。

募金箱設置し支援

復興願い花泉互市を開催

花泉中央振興商店街協同組合(伊藤満明理事長)が主催する春の花泉互市は4月1日から3日間、花泉駅前中央通りを会場に催されました。

東日本大震災で甚大な被害を受け、「一時は開催を自粛した方がいいのではないかと考えていたが、ぜひ開催してほしいとの声が多かった」と開催までの経緯を語る同理事長。被災地へ考慮して開催の合図であるのろしをやめ、被災者支援に少しでも繋がればとの思いから募金箱を設置しました。

募金で集まったお金は、義援金として日本赤十字社を通じて被災地へ届けられます。



甚大な被害を受けた宮城県女川町から元気に参加された出店者



豚汁とおにぎりの炊き出しを行う大東高校の生徒

元気をあげたい

大東高校生らが炊き出し支援

東日本大震災の被害を受けた人を励まそうと、大東町の大東高校の生徒らは3月31日、陸前高田市の下矢作コミュニティセンターを訪れ、暖かい豚汁とおにぎりの炊き出しを行いました。

同校の生徒12名と教職員6名は、生徒が握ったおにぎり、大鍋を持ち込み調理した豚汁250食を振る舞いました。参加者は、「おいしい」「暖かい」と生徒らの気持ちがかもった豚汁などを味わっていました。

炊き出しに参加した生徒は「なにか活動できないかみんなで話していた。震災に遭われた人に元気をあげたい」と話していました。